

2004 年度自己点検・評価報告書の公表にあたって

学長 若江 正三

この度、『2004 年度自己点検・評価報告書』を公表する運びとなりました。大学における教育・研究活動の活性化と、更なる改善・改革を進めるうえで、自己点検・評価及びその公表が重要な役割を果たすようになってきた今日、本学としてもなお一層の取り組みを進めて参る所存です。公表に際し、従前の経過、公表の意義、今後の計画等について、一言述べておきます。

1) 自己点検・評価活動の主な経過

本学の自己点検・評価活動は、1995 年に『平成 7 年度自己点検・評価報告書』を発刊したことに始まります。

その後、開学 30 周年の佳節にあたり、(財) 大学基準協会維持会員資格取得申請のために、自己点検・評価活動を行い、それを報告書にまとめ 1999 年 8 月末、同協会の維持会員校(現・正会員。以下正会員とする)の加盟判定申請を行いました。その結果、2000 年 3 月、同協会から、大学基準に適合しているとして正式に正会員として認定されました。このことは、本学が大学として相応しい要件を充たしていること、理念・目的の実現に向け改善・改革を行っていく条件が備わっていることが、同協会から保証されたことを意味します。

引続き同年 10 月には、自己点検・評価活動の一環として、「自己点検・評価報告書」及び「大学基礎データ調書」をまとめ、『自己点検評価報告書—2000 年度版』(CD-ROM)を刊行し、国公立大学等に贈呈、関係諸機関に公表しました。これはペーパーレス化(電子化)を推進し、IT(情報技術)の活用へ、先駆けた試みとなりました。

また 2002 年度も全学的な自己点検・評価を実施しました。

2) 2004 年度の自己点検・評価活動

今般、上記の趣旨に基き、大学大きな使命の一つである「教育」に関する改善を目指して、同協会が示す点検・評価項目のうち、「学士課程及び修士・博士課程の教育内容・方法等」について重点的に自己点検・評価を実施し、ここに『2004 年度創価大学自己点検・評価報告書』として、公表するに至りました。

3) 三者評価に向けて

今後は、こうした年間活動を基本に、2007 年 4 月には同協会に「相互評価」の申請を行い、併せて認証評価とする予定で、更なる自己点検・評価体制の確立と内容の充実を期していく所存です。

最後になりますが、本学に対するご支援に感謝申し上げますとともに、公表をより意味あるものにし、また本学の改善・改革にとって大きな前進とするためにも、本報告書に対し、皆さまからの貴重な御意見を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。